

## あ い さ つ

(要 旨)

所長 福 田 武 雄

当研究所が国立学校設置法により昭和 24 年 5 月 31 日に設立されてから、ちょうど満 10 周年になりましたので、本日ごくうちわにその式典を催しましたところ、総長はじめ各位のご出席を得ましたことは、研究所一同欣快に存ずる次第であります。

顧りみますに、当研究所は、昭和 17 年にできました第二工学部が、終戦後、新大学制度実施に関連して研究所に転換したものであります。この転換に際しましては、当時 62 講座ありました学部をその半分強の 35 部門の研究所に変換する関係上、教職員の定員数の激減にたいする措置、教育施設を研究施設に変換することなど、いろいろな難問題がありました。前所長各位、総長はじめ学内外の各方面のご努力やご援助によりましてきわめて円滑に解決され今日に至りましたことは、深く感謝申し上げる次第であります。

当研究所ができましたとき、いったい何を研究するところか、あるいは失業救済研究所ではないかなどという人もありました。しかし、これにたいしましては、われわれは事実をもって説明しようと考え、研究者・研究補助者および事務職員も一体となり、10 年間黙々として努力してまいりました。その結果、研究成果がようやくみのりまして各方面にたいし有用な価値ある多くの研究ができ、今日におきましては、当研究所の意義が一般に認識されてきましたことは、各位ともよろこばしく思うところであります。

今日までわれわれは、予算が少ないとこぼしながらも、不十分な予算のものでできるだけの研究をしてまいりました。しかし予算が少ないと言いますもの、全国にある約 60 の大学付置研究所にたいし文部省が支出する予算の総額は、人件費をふくめて本年度は約 45 億円であり、当研究所は約 3～4 億円を使いますので、予算総額の 1/12 程度に当り、このことを考えますと、われわれの責任は非常に重大であり、したがって、単なる自己満足の研究ではなく、日本のみならず世界人類のために必要な立派な研究を進めて行かなければならないと思えます。

ご承知のように、当研究所は、住みなれました千葉から京東の麻布に移転する方針が決定しました。この移転を研究上にまた当研究所の将来の発展に支障のないように実施しますことは、きわめて難事業でありまして、これにたいしては、われわれとしましては懸命の努力をいたしますが、総長はじめ各位におかれましては、格別のご協力をお願いする次第であります。



福 田 所 長

## 10 周年 記念 行事

記念行事委員長 高 橋 武 雄

わが国における工業技術の向上を旨として第二工学部が発展して当研究所ができてから、ちょうど今年で満 10 年となった。よって毎年行ってきた開所記念日に、本年は特に 10 周年を記念する行事を兼ね行うこととなった。

6 月 1 日 11 時、茅総長、内田前総長、中原奨励会理事、瀬藤、星合、兼重の前所長その他当所に縁の深い先輩を来賓に迎え、大講堂において、全員参列の下に厳肅に記念式典を挙行了した。

行事委員長高橋武雄教授の開会の辞、所長福田武雄教授の挨拶があってから来賓の祝辞に移り、本学総長茅誠司氏、生産技術研究奨励会理事長中原延平氏、前所長瀬藤象二氏より、当所の生立ち、生産研究の重要性、当所の活動に対する要望など、まことに有益かつ興味深いお話を承り、われわれは当所の将来に対する明るい希望を与えられると共に責任の重大さを痛感した。

正午より来賓を中心に、常務委員、行事関係委員が参集して記念撮影のあと、大会議室で午餐会が行われた。

来賓として多数の停年退職教官も出席され、生研 10 年の懐旧談に花を咲かせた。

13 時より集中展示場(新築の中央試作工場)に来賓を案内し最近の研究業績をご覧願った。なお 13 時半より開催された奨励会理事会・評議員会に出席された理事・評議員の方々も終ってから集中展示場を参観された。

この日、所員一同には記念品(ロケット模型、富士精密会社製)10周年誌、赤飯が配布され、静かな新緑の所内には快い祝賀気分が旺盛した。

翌 2 日は例年の通り所内公開と講演・映画会とが催された。所内公開は 10 時より 16 時までにつづけられ、参観者は無慮 4,672 名に上り、その外に学生の団体見学者も 2,160 名余を記録した。幸い好晴に恵まれたので、参観者は各研究室に踵を接し熱心に見学し、説明者には大変な苦勞であったが、誠に快いものがあった。

13 時より大講堂で例年のとおり講演会が催され、ます